

こどもの病気対策法^{①20}

— 日本脳炎 —

大分大学客員教授 是 松 聖 悟

日本脳炎はヒトからヒトには感染させることはありません。蚊と豚などの家畜を介してヒトに感染するものです。ウイルスを持つている豚がいたとします。蚊がその豚を刺したら、蚊がウイルスを持つようになります。その蚊から刺されたヒトが感染するので、感染したヒトのうち、1,000—1,500人に1人が日本脳炎を発症し、けいれん、意識障害を来します。治療薬はないため、3人に1人は亡くなり、3人に1人は脳の障害を残してしまいます。

そのため、日本では豚がどれだけ日本脳炎のウイルスを持っているかが検査されていますが、驚くべきことに、大分県の8割以上の豚がウイルスを持っているのです。蚊にさされないよう、外出の際の衣服には注意が必要です。

日本では15年ほど前に、ワクチンによる脳炎が1人発生したことを契機に、予防接種の声かけが控えられた時期がありました。その間に、福岡、熊本、高知など、大分県と同じく、8割以上の豚が日本脳炎ウイルスを持っている地域で、こどもが日本脳炎にかかってしまう不幸なことが生じたため、その反省をもとに、現在は別のワクチンで再開されています。

しかし、平成7年4月2日から平成19年4月1日までに生まれたこどもはワクチンが充分になされていない可能性があり、母子手帳で確認して、合計4回の接種をしていない場合は、かかりつけの先生に相談してください。

また、従来、日本脳炎ワクチンの接種開始時期は3歳とされていましたが、その理由は、「子どもが外遊びをしながら、初めていた時期」という現代では考えられない理由でした。今はもっと早くから外遊びしますよね。蚊に刺される可能性ががありますよね。大分県のような地域では、早期から予防接種したほうが望ましいので、かかりつけの先生に相談してください。

日本脳炎の5つのポイント

- ・ ウイルスをもった豚を刺した蚊が、ヒトに刺したら感染する。
- ・ 治療薬はなく、死亡率は高い。
- ・ 大分県の豚の8割以上がウイルスを持っている。
- ・ 予防接種が控えられていた時期があり、免疫が不十分な世代がある。
- ・ 従来、3歳から接種していたが、大分県では早期接種が望ましい。

